20210103レムナント教会1部

 **Onlyの信者に！(使徒1：6-8)**

　2021年、年が明けました。けれども、コロナ禍の状態、影響はしばらく続くと思います。しかし、そのなかでも神様の契約は止められることなく、変わることなく実行されていくことを私たちは信じています。そして、私たちはそのなかに召されている幸いなものだということを覚えて年をスタートしないといけないと思います。そのためにすでに私たちは今年の契約のメッセージをいただきました。237国霊的ネットワークを張るための見張り人として召されているという契約をいただきました。そして、その237国に信者以外にはできない霊的ないやしのための霊的医者であることを教えられました。それから、そのために237国サミットとしての働きが求められますが、そこにキリストの三職分、キリストの大使として私たちはすでに召されているものだという契約をいただきました。コロナが続いていても、そのなかでこのメッセージの成就を私たちは体験し味わっていくことでしょう。そのことを固く握って、そのために今レムナント教会の私たちに一番求められることが何か、その契約の成就を見るためのキーワードは一体何なのかと言いますと、それはOnlyという言葉です。Onlyの信仰、Onlyの信者になることです。その時刻表に合わせてすでに与えられているその祝福を具体的に味わうようになるものだということを覚えていただきたいと思います。

　ですから、今年一年間、これから一生涯でしょうけれども、2021年はまず第一にレムナント教会の兄弟姉妹の皆さんは、Onlyイエスという人生の解答が自分自身に刻印されるような年にしていただきたいと願います。そのために皆さんが素直に、真剣に問いかけないといけないことがあります。「なぜキリストでなければいけないのか」「なぜイエス様を信じなければいけないのか」「なぜキリストだけと言われているのか」ということをクリスチャンの中でも嫌がる人がいるのです。でも皆さんは237国の答えの主人公として自分自身と向き合って、「なぜキリストでなければいけないのか」と問いかけてみてください。世の中には宗教が多いです。すばらしい宗教の教えもたくさんあります。また、世の中には私たちが憧れるもの、見習っていかないといけないような良いもの、すばらしいものがたくさんあることに間違いありません。また、キリスト以外にも実際人生を生きていくために必要なものなどもたくさんあることは言うまでもないのではないでしょうか。それにもかかわらずなぜキリストだけ、キリストでないといけないのかということを真剣に問いかけないといけません。分かっているかのように思っていても、この問いかけを通らないと次に進みません。その次のOnlyということは本当は偽物になってしまいます。なぜなのでしょうか。学校でも教えてくれない、政治家もお医者さんも知ることができない、ただ聖書だけに教えられている人生の本当の問題に気づいたときに、私たちはキリストだけ、キリストでないといけないと分かります。悪魔、サタンのしわざが分かって、それによって人間が取り返しのつかない罪を犯してしまったこと、その罪の奴隷になってしまったこと、その結果、地獄の運命に捕らわれて、生まれながら神の御怒りを受けるしかない存在として生まれてしまったことが分かります。誰がでしょうか。すべての人が罪を犯したので、ということが分かったからです。ただ性格が悪いから、なかなか治すことができない不治の病に罹っているからという理由ではありません。このような内容を原罪と言います。原罪は昔話、おとぎ話ではありません。今現在も主が再臨なさるまでして全体を掌握している力なのです。それによって格式のある者も無学な人間も心優しい人間も犯罪者も貧乏な人も金持ちもそういうことと一切関係なく、すべての人がキリストでなければいけません。そして、そのキリストがイエス様なのです。十字架にかけられて3日目に死の力を打ち破ってよみがえられた唯一の方、そのイエス様がキリストならばということなのです。そのイエス様が多くの人が理解しているかのように有名な宗教指導者、世界四大聖人の一人だという理解では無理でしょう。そのイエス様が今も生きておられるキリストでなければいけないと言われていたそのキリスト、ＴＨＥキリストなのです。イエスがそのキリストならばOnlyイエスになるしかないのではないでしょうか。良いものがあろうが、どんな事情があろうが、どこの時代、どこの国に住んでいようが、Onlyイエス、人生の解答はイエスのほかにはありません。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」。人は神様と一緒でないとまともな人間、まともな人生になることはできない存在なのです。世界中でこの御名のほかに、私たち人間が救われる名としてどのような名も与えられていません。道は一本しかありません。イエスOnlyなのです。家庭環境が悪いから、自分の頭が悪いから、社会があまり良くないのでということはすべて間違いなのです。人生の解答はイエスだけです。イエスがないから問題なのです。イエスがないのに裕福になった、それは人生の解答ではありません。イエスOnlyという言葉を裏返しますとこのように言えるものではないでしょうか。神様はイエスを通して人生のすべての問題を解決なさいました。イエスひとりを通して神様は人生のすべての問題の解決をなさいました。そして、イエスOnlyというのは、神様はこのイエスひとりにすべての祝福を全部備えられていらっしゃるのです。これがイエスOnlyです。神様がそのようになさいました。他の何かによってではなく、イエス＋αということはありません。イエスOnlyなので、2021年、知らず知らず過去の刻印、あるいは無意識的にイエスより優先されるようなものが消えてなくなるようにしなければなりません。

　ある金持ちの青年がイエス様を訪ねてきて、どうすれば永遠のいのちに預かることができるのでしょうかと尋ねました。その時、イエス様が「あなたの財産をすべてうっぱらって施しをして、それからわたしについてきなさい」と答えます。すると、その青年が心配になって帰っていきましたと聖書には書いてあります。それはどういう意味なのでしょうか。お金はいらないという単純な話なのでしょうか。おまえが支えにして、そんなに大事にして、一生苦労しながらかき集めたそのお金は人生の解答ではないという意味なのです。イエスについて行きなさい。イエスこそが人生の解答なのです。イエスこそが神様と出会ういのちであり、イエスこそが悪魔、サタンに勝利されるまことの王様であり、イエスこそが罪と地獄の運命から私たちを解放させるまことの祭司たる方です。だから、イエスOnlyなのです。目が見えないバルテマイという人が、イエス様が通りがかることを聞いて、「ダビデの子、イエスよ。私をあわれんでください」と叫びました。そのとき周りの人々が「黙れ。おまえのような者が何を叫んでいるのか。おまえのような人間はイエスに近づく資格などはない」という意味で、黙れ、黙れと言いました。周りのすべての人が、世界中、社会のすべてが黙れ、黙れと言っても、イエスOnlyというのはそこで黙ることができません。止められません。より大きな声で叫びます。「ダビデの子、イエスよ。私をあわれんでください」。なぜならイエスOnlyだから。周りからなんと言われようが、何がどうであろうが関係ありません。それをイエスOnlyと言います。2021年、このイエスOnlyが口先だけの告白ではなく、それもすごい奇跡に近いものではありますけれども、皆さんの心にたましいに刻印されるようにしましょう。現場で姦淫の罪を犯していた女の人とイエス様とのやりとりの中でイエス様が「おまえを石で殺そうとしていた人々はどこにいるのか」と言われたときに、その女の人が頭を上げてみると誰もいない、みな消えてなくなってイエスとその女の人だけがそこに残っていた場面をイメージしてください。そのようなことをOnlyイエスと言います。正しいかどうか、間違っているか、あるいはそれが良かったのかどうか、一切関係ありません。イエスだけが残ることなのです。イエスOnlyです。2021年、イエスOnlyという人生の解答が刻印される年にしましょう。そして皆さんが知らず知らず頼りにしていたもの、支えにしていたもの、それが良いか悪いか関係なく、そのすべてが崩れて消えてなくなるようにしましょう。逆に言いますと、皆さんの心の中に誰かのせい、何かのせいにすることによって心の傷として残っているものがあります。無意識的でも脳細胞が何かの誰かのせいと刻印されるとそれが心の傷になります。そういったものがすべて消えてなくなるように。それはOnlyイエスとは相反するものなのです。誰かのせいではありません。イエスがなかったからです。教会に通っていたのにOnlyイエスでなかったからなのです。教会がどうのこうのではありません。ここにまことの自由があります。私たちは237国の主人公です。

　そうならば今年は徹底的にOnlyイエスという人生の解答が刻印される年になるようにしましょう。そして、その刻印によって当たり前な結果でしょうけれども、2番目、2021年はOnly信仰という人生の法則、生きる法則が根を下ろす年となるようにしましょう。Onlyイエスが告白できるものは、これから生きる法則、生き方というものが変わります。今までにはなかった生き方、そして、この世の中には見当たらない生き方なのです。それが信仰です。義人は信仰によって生きる。Only信仰なのです。うっかりすると信仰はありがたいのですが、それだけでは足りないかのようなニュアンスがあるかもしれません。タラッパンのいろいろなメッセージの中でもそういう意図ではないのに聞く人がそのように受け止める可能性があるのです。腹式呼吸がなければだめなのでしょうか。それは必要なのですが、信仰で足りないので＋腹式呼吸ではありません。それは別の意味で理解しないといけません。義人は信仰によって生きるわけです。キリスト教をややこしくしてはいけません。これが宗教改革で命を懸けて守っていたものなのです。パウロが命を懸けて宣べ伝えていたものなのです。2021年、Only信仰という生きる法則が根を下ろしていくようにしましょう。今まで私たちは神様を離れていたので当然ながら当たり前に自分が基準であり、自分中心、また人間が中心になるしかありませんでした。これを認めないといけません。悪いか良いかという以前にそうなるしかなかったわけです。ですから、当然そこから生まれる法則が因果応報の法則です。人がこうするからこうなる、こういう原因があるからこうなると、必ず結果を裏付けるために人間の方から原因を見つけようとするのです。だから、ついつい自分のどうのこうの、人間のどうのこうの、行いがどうのこうのの方に行っちゃうわけです。当たり前かもしれません。今までそういう法則の中で縛られて生きてきたので、その因果応報の法則から枝が生まれて世の中の多くの法則が生まれるようになりました。道徳、倫理というのもその一つであり、社会の法律というのもそういうものであり、常識、ルールやいろいろなものがあります。それはもちろん大切なものに間違いありません。しかし、それがこれからOnlyイエスを告白している信者の生きる法則にはなりません。世にあるいろいろな法則、それがこの世の中を生きるために必要になるもの、参考にしないといけないものに間違いありませんが、その法則によって判断し、それに縛られたりすることがないようにしましょう。信仰の法則というものは、そのような世にある法則にこれっぽっちも1ミリたりとも属していないものなのです。極端に申し上げると、これから私たちが生きていくために世にある法則は根本的にはすべて無視しても構わないし、引っかかるものは何一つありません。先ほども申し上げましたように、人のどうのこうの、人間がどうのこうの、そういった世の法則は参考にすぎないものです。これから私たちの人生の法則、信仰というものは、天にある法則であり、天から下って来たものであり、それは神の恵みを大前提にして生まれるものなのです。だから、恵みの法則なのです。私たちには原因が何も見当たらないのに、すばらしいいのちの結果が生まれるようになりました。それが恵みであり、あなたがたは恵みのゆえに信仰によって救われたのです。世のどの法則にも縛られることなく、この信仰の法則は唯一の法則なのです。つまり、世のいろいろな法則は参考にしないといけません。世の中を生きていくわけですから。しかし、1ミリたりとも負担に思う理由はありません。義人は信仰によって、つまり、私たちのどうのこうのと全く関係なく、神様が恵みによってイエス・キリストを通してなさったすべて終えられたことをただでいただくだけなのです。それを信仰と言います。いただくものなのです。聖書は誰でもこのイエスを信じる者は永遠のいのちが与えられるとあります。つまり、イエスを信じることによってもう終わりなのです。信じることによって、天にある霊的すべての祝福をいただきます。それ＋何かをしないといけないということはありません。しかし、なぜいろいろな訓練や腹式呼吸などをするのかと言いますと、信じないから、私たちに刻印、根、体質になっているものがこの信仰を邪魔するからです。信仰によってもう終わりだとならないようにするので、信じるためにやるものなのです。その前にOnly信仰なのです。信仰の他に皆さんが気になって、引っかかるすべてから自由にならないといけません。何一つ引っかかることなどはありません。代表的なケースが、イエス様の十字架の片側で強盗殺人罪で死刑になっていた者が、最後の最後にイエス様を告白しました。信じました。行いがどうのこうのと語る余裕や時間も何もありません。だからと言って、その人に与えられる祝福が、ペテロの祝福、パウロの祝福と違うかと言いますとそうではありません。「今日パラダイスにあなたはわたしとともにいます」と言われました。すると、でたらめに生きて最後に信じればいいのか。勝手にやってください。そういうものではありません。信仰によって生きるわけです。良い人間だから、頑張るから、祈りが多いからではなくて、イエスを信じる信仰がすべてなのです。ここに懸けないといけません。ぶれてはいけません。つまり、皆さんがどんな過去を歩いてきたのか、今現在、皆さんのレベルがどうなのか、いろいろあるでしょうけれども、イエスを信じた人であれば永遠のいのちの祝福、すべてが終わり、すべての祝福が皆さんのものになっているということを忘れてはいけません。イエスを持っている者はいのちを持っていて、イエスを持たない者はいのちを持っていません。イエス。信仰。へブル10：19、神様の前に大胆に出ることができるようになっています。なぜなら私のどうのこうのと関係ないからです。問題はOnlyイエスなのか。Onlyイエスであればそこから生まれるものがOnly信仰です。何もこちらから持ち出すものはありません。受け入れるだけです。これからは実はそのイエス様を信じ続けることが私たちの法則なのです。

　もう一つ、2021年、このOnlyイエス、Only信仰の法則に立つと、Only祈りという人生の方法、生きる方法、力が体質になる年にしていきたいと願います。ここでOnly祈りというものは、Onlyイエス、Only信仰に基づいてなのです。簡単に申し上げると、Only祈りというのは不信仰にならないことです。ずっと信仰に立ち続けることです。先ほども申し上げましたように、イエスを信じることによってすべて完了しました。ヨハネ19：30、エペソ1：3、天にある霊的すべての祝福をすでにいただいています。その証拠が何かというと、Ⅰコリント3：16、聖霊が内側にいつまでも離れることなく宿ることになっています。それでもう完璧なのです。まだ変わっていなくても、成長していなくてもイエスを信じる者はすでにこうなっているのです。ですから約束通り、使徒1：8、聖霊があなたがたに臨まれると力を受けます。聖霊の満たし、聖霊の力が約束されている者に間違いありません。そうならば残るのは使徒1：14、祈りに専念にすることです。不信仰にならずに。この信仰によって与えられていることをすべてその通りに信じて、論理的に考えれば残るのはそれを味わうことしかありません。だから、Only祈りになるのですが、初代教会の人たちのようにこういうふうになっているのにも関わらず、元旦のメッセージ通りに申し上げると、237国の主人公にすでになっているのにも関わらず、使徒1：6、この国を再興してくださる時が今なのでしょうかと、他に気になることがいっぱいあるわけです。条件、状況、環境にすぐに引っかかり、気になってそれに足がすくわれるようになってしまうのです。それが刻印、根、体質になっているので。Only祈りというものは、Onlyイエス、Only信仰によって、そこにあるすべてを信じて、初代教会から見られるこの国を、私たちの家庭を、この問題を、私の弱さをというように気になることをすべて取り払い、祈りに専念するということです。条件、環境、状況などに縛られないことが祈りです。そういうことと関係なく、サミットの方に、天にある霊的祝福なのです。永遠のいのちの祝福なので、それに捕らわれないように。でも、それがあまりにも刻印されているので、運動しながら、集中しながら、賛美をしながら、口ずさみながら、腹式呼吸などをしながら、あらゆる方法をもってそれに縛られないように、そのタイムを持つわけです。そういう意味で、それが求められるものであって、信仰だけで、イエス様を信じるだけでは足りないので＋何かがあるかのようなニュアンスは宗教改革を真正面から否定するものです。それは神秘主義です。よく考えてください。イエスで十分なのです。そこに入っていくことです。

　前からも申し上げているように、私たちは本部の流れの中を一緒に歩いて行かないといけません。イエスを信じることで十分でないので、他の何かを求めて行くというのは病気が悪化するだけです。ものすごく何かを求めているかのように思われるかもしれませんが。極端に申し上げると、そういうことはないでしょうけれども、世界中のすべてがストップして私一人しか動かないとしても皆さんは感謝して、満足して、キリストで十分じゃないといけません。誰かがいるから、どこの教会があるからとか、そういうことはまだ私の中でOnlyイエス、Only信仰、Only祈りでないからではないでしょうか。ただ一番やっかいなのは、それを素直に認めることができないのがその霊的な問題でもあります。2021年は、Onlyイエスの中で信仰によって満足して、様々な条件、状況、足りないもの、問題、課題がたくさんあるでしょうけれども、そういうものに縛られることなく、歯を食いしばってでも不信仰の方に走らず、Only祈りの方に行きましょう。Only祈りというものは、そういう意味でなにものにも縛られないと同時に、すべての言い訳が崩れて行くということでもあります。言い訳などせずに。植民地が100年間ずっと続くにしても、おまえには何の問題もないだろう、イエスはキリストではないのかということです。そのときに祈りの方に行くことができます。

　最後の結論です。2021年、このようにOnlyイエスが刻印され、Only信仰が根を下ろして、Only祈りが体質になることによって、つまり、聖霊の導きと聖霊の力によって生きるということです。そうすると結果、私たちはOnly伝道、福音宣教という人生の理由、生きる方向、それに釘をさすことになります。そのような一年にしていきたいなと思います。この世はキリストのほかには希望がありません。誰が何と言おうが、科学がどう発展して、世界がどう変わろうが、自動運転がどうのこうの、AIがどうのこうのと言っても、この世はキリストのほかには希望がありません。ですから、皆さん、いつも申し上げているように、社会的必要と本質的必要、これをわきまえて考えないといけません。そうしないと、マタイ16章でイエス様の問いかけに対して、バプテスマのヨハネです。エリヤです。預言者の一人ですというような信者、そのような教会に変わっていくようになります。この世はキリストのほかには希望がありません。社会的必要、本質的な必要、これをよくわきまえないといけません。ですから、皆さん個人にとっては人生のメインとサブがしっかりとした位置づけにならないといけません。福音宣教こそがメインであり、皆さんの仕事、専門、才能、すべてがサブになります。結婚も家庭もすべてがサブです。そして、目的と手段、道具というものがしっかりと明確にわきまえられないといけません。目的は福音宣教であって、すべては道具なのです。このような意識を管理人の生き方、管理人の姿勢と言います。そして、このような管理人の姿勢こそ、終末論の人生と言います。私たちは地球がいつまでもずっと永遠に続いて、今の家庭、今の自分の人生がいつまでもハッピーにずっと続くというような勘違いの中で生きるかもしれませんが、そんなことはありません。とんでもありません。地球も終わりがあり、人生も終わりがあります。その終わりがあるというのは、そこまでの時間というものは、目的が明確にあるということです。宇宙が動いて地球が回っている理由は、福音宣教の他に理由はありません。これが終末の信仰です。ですから、すべてが道具でありサブなのです。執着も未練も持つ理由がないし、捕らわれる理由も縛られる理由も、ある意味、高慢になる理由も泣く理由もありません。福音宣教がメインでないと人生はふらふらしてしまいます。それをメインにして、他のすべてがしっかり道具としての位置づけになったときにそれが聖なるものとなり、大事なものとなり、人生を大事に生きて行くようになるでしょう。皆さんが成功するために研究が大事なものではなくて、福音宣教のために必要なものなので、それに私は人生を懸けることができるのではないでしょうか。それが音楽であれ、科学であれ、不動産であれ、どんなものであれ、この位置づけがしっかりしていないとどんなに頑張っても結局は神様にとっては点数が低いわけです。2021年、Only伝道という人生の理由に釘をさすような年にしていきたいと思います。

　そのためにこれから一年間、皆さんが講壇のメッセージを通して、このOnlyの内容を常に確認するようにしてください。そのような姿勢でメッセージを聞きますと、たぶんそのように聞こえてくると思います。それがひとつひとつ積み重なっていくようになり、柳先生がおっしゃったように内側の何かが強められるようになるでしょう。そして、その講壇のメッセージを通して確認したものを祈りの中でずっと確認し続けるように、繰り返し、繰り返し確認するようにしましょう。そうすると、皆さんの日々の生活の中でいろいろな事柄を通してまた確認するようになります。それに適用していくとも言えるものでしょう。それさえしていけばいつのまにか皆さんが内側から丈夫になっているということが体験できるようになると信じています。2021年、元旦の契約のメッセージを握って、皆さんがOnlyの信者として整えられる祝福を祈りたいと思います。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。2021年、みことばとともにスタートすることができてありがとうございます。もうすでに成就すべき契約のメッセージをあらかじめしっかりその勝利を味わうように、237国の契約を与えてくださりありがとうございます。その鍵となるOnlyの信仰にひとりひとりが具体的に刻印、根、体質になり、釘をさすことができる一年となるように聖霊様が祝福してくださり、特に講壇のメッセージを通して、整えられるように神様が祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。